

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で (ヨシエル)」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119 : 7、エペソ人 6 : 5 「真心から」、マタイ 13 : 44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ ②ダイナミックな多角的、立体構造 :

神の視点、人類史に先立って配備された神の考案、天地宇宙の全被造物は神を証し

→ ③古代ヘブル (イスラエル) 史を通して記された正確な人間史 :

科学、考古学、世俗の歴史書による裏づけ、時代考証

過去 (史実) を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教

『使徒の働き』の書

☆ペテロをはじめ十二使徒、神の国のメッセージを、①ユダヤ人に告げ広めた

☆その結果は、ステパノの石打刑

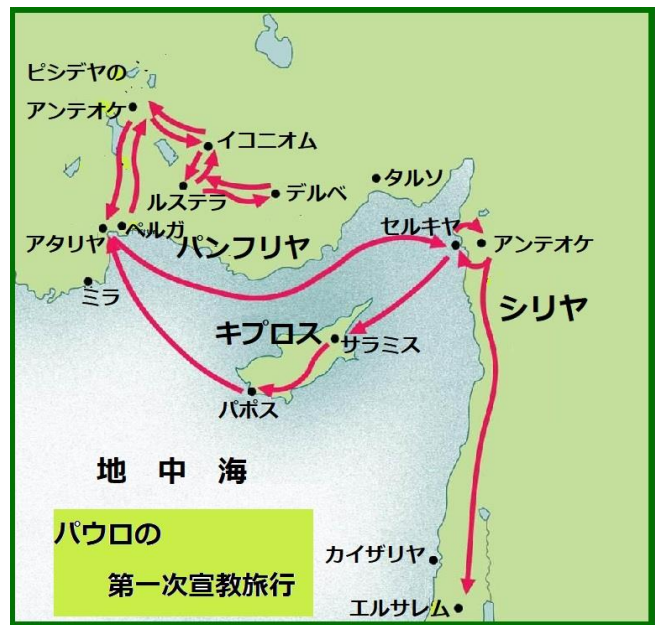
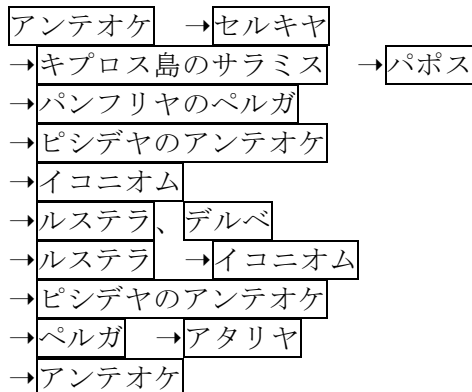
☆引き続き、②サマリヤ人と③異邦人にメッセージが伝えられた

☆②と③への宣教の出来事の際に、パウロが救われた →使徒の働き9章

☆パウロは最初の宣教旅行で、アンテオケから西方へ旅

異邦人に向けての第一次宣教旅行

使徒の働き 13 : 1-14 : 26



パウロの書簡

☆新約聖書の半分以上の書の著者はパウロ

☆『使徒の働き』二十八章のうち十七章はパウロの言行録

☆『ガラテヤ人への手紙』は、「ローマ人への手紙の短編」で、キリスト者の自由の大憲章

☆「キリストのからだ」としての教会の真理、機能、活動、最終地点を明示

ガラテヤ人への手紙/ガラテヤ書

ガラテヤ人

☆古代、小アジアの北部に住みついたガリア人

☆西ヨーロッパ、フランス、スペイン北部、英国諸島に広がったケルト人

二つのガラテヤ、北か南か？

☆パウロ、ガラテヤ州の南部地域の諸教会、一最初の宣教旅行で設立した諸教会— に書簡を送った

聖書

直面していた問題

- ☆①自ら、宗教的背景のあるユダヤ人に恩寵を宣教すること
- ②ユダヤ人と異邦人を対象に、ユダヤ人の会堂で福音宣教すること
 - *ユダヤ人が所有していたもの
 - 割礼、イスラエルの栄光、唯一の神、高度な道德基準のユダヤ教の誇りほか—
 - *異邦人が所有していたもの
 - 偶像、偽りの神々、不品行、不道德、肉的放縦ほか—
- この問題は最終的な決定のため、エルサレムでの会議に持ち込まれた
- ☆ガラテヤの教会では、安息日の遵守、食物規定、教会則の遵守等々が
- キリストを信じる信仰によって信徒に与えられた「自由」にすぎ変えられ、強要された

割礼派のユダヤ人たち

- ☆御国のメッセージと教会のメッセージとを混同
- ☆彼らの目的は、異邦人信徒をユダヤ教の組織に誘い込むこと
- ☆人は信仰と律法を守ることによって救われると、教えた
- ☆これらの教師たち、ガラテヤの教会をかき乱した
- ⇒神が認め、祝福される唯一の福音は、
- 神の恩寵による福音、イエス・キリストを信じる信仰だけによる義認、救い

パウロの主張

- ☆福音は①ユダヤ教に加えられたものではない
 - ②単に律法を補うものではなく、律法の終局、成就
 - ③むしろ、律法とは正反対
- ☆新しい御国は、一国家的レベルに留まるのではなく、神学的、社会的、地理的に
- イスラエルの国境を越えて広がる
- ☆選択は二者択一
 - *「モーセの律法」か「キリスト信仰」のいずれか
 - *「恩寵か律法」、「信仰か働き」、「モーセかキリスト」のどちらか
- ⇒神の恩寵は人のすべての働きを締め出す！

今日にも及ぶメッセージ

- ☆ガラテヤ書は、律法主義に反対する神の最強のメッセージ
 - *肉は宗教行事を好む
- ☆キリスト教をも含め、多くの宗教組織は、律法と恩寵（恵み）を混同、複雑な救いの道を提供
- それは実際には束縛の道

ガラテヤ書の書かれた時期？

- ☆31-36CE
 - *パウロの回心 →使徒の働き9:3、:18-20
- 1. 49CE
 - エルサレムでの会議の後、あるいは、ペテロのアンテオケ訪問後
- 2. 50-51CE
 - 『テサロニケ人への手紙』がコリントから送られた後
- 3. 53CE
 - 第二次宣教旅行で、コリントから
 - 49-56CEの間？

- ☆『ガラテヤ書』は、パウロの最も初期の書簡に数えられる

ガラテヤ書の特徴

- ☆パウロの他の書簡と違い、厳格、厳粛なメッセージ
 - *ガラテヤの信徒たち、信仰の基が攻撃を受けていたので、重大な危機にあった
- ☆パウロの戦いの書簡
- ☆律法主義からの解放宣言
- ☆信仰義認、—信仰によって義と認められる—の教理を力強く宣言、この教理を防御
 - ①罪人は、ただ信仰だけで恩寵によって救われる
 - ②救われた罪人は、恩寵によって生きる
- ☆テーマは信仰による新しい道、—信仰による義認—、強調は「信仰」

聖書

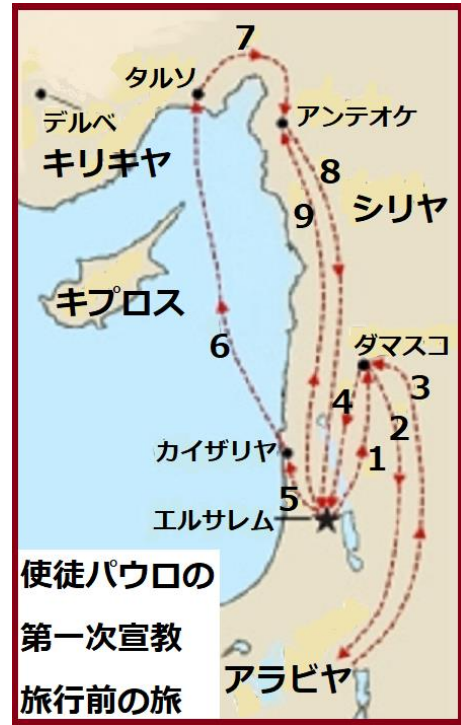
パウロに啓示された真の救いの道

エルサレム パウロ、ステパノの殉死を目撃
 →ダマスコ キリストとの出会い、回心、癒し

☆後に、パウロ、①エルサレム神殿で、
 →使徒の働き22：1-21
 ②アグリッパ王の前で、回心の出来事を語った
 →使徒の働き26：1-32

☆パウロの証し
 ①自らをキリストからの直接の啓示を告げる者
 ②恩寵の福音を、異邦人に告げるために遣わされた使徒として

→アラビヤ 三年間滞在
 →ダマスコ
 →エルサレム
 十五日間滞在、ペテロとヤコブに会う
 →カイザリヤ →タルソ →キリキヤ



キリストによる救い

「私は救われた、私は救われている、私は救われるであろう」

- ☆信仰義認（信仰により義とされる） → 過去時制
 神からのとこしえの生命の贈り物
- ☆聖化（聖めの過程） → 現在時制
 信徒の信仰と働きを伴い、前進
- ☆栄光化（栄光にあずかる） → 未来時制
 地上における信仰の過程の結果

ガラテヤ書

1章

- ： 1 「使徒となったパウロ…キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神…」：
 - *パウロ、神から個人的に委任を受けた
 - *使徒=遣わされた者
 - *キリストご自身がパウロを選び分け、召名/召命
 - *強調は甦り
 - *甦りは福音のメッセージの核心
 - *死に対するキリストの勝利は、私たちの希望の根拠
 →コリント人第一15：1-4
- ： 3 「…神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように」：
 - *パウロのあいさつ
 - 「恵み」： ‘χάρις (カリス)’、ギリシャ語
 - 「平安」： ‘εἰρήνη (シャローム)’、ヘブル語
- ： 4 「キリストは…私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました…」：
 - *神の恵みの御目的は、私たちをこの邪悪な世から救ってくださること

パウロの福音

☆キリストの死、埋葬、甦りが中心
 ☆平和をもたらす恩寵/恵みの福音、解放の福音

聖書

- : 5 「どうか、この神に栄光がとこしえにありますように。アーメン」 :
- * 1章冒頭の五節で、イエス・キリストの御働きに言及
 1. 神の恵みのチャンネル、キリストはご自分をささげられた → マタイ 20 : 28
 2. 私たちのために罪となられた → コリント人第二 5 : 21
 3. キリストはご自分の魂/身体を罪のためのいけにえとされた → イザヤ書 53 : 10
 4. **神に永久に栄光が帰されるために**、キリストの恵みが与えられた
- : 7 「ほかの福音といっても…別に福音があるのではありません…変えて…」 (下線付加) :
- * 「ゆがめる」の意
 - * もっとも古い異端は、恵みの福音に何かを加えること
 - * カルトや「…主義」では、救われるために人が何かをすることは義務
 - * パウロ、「恵みの福音」が神の啓示によるものであることを主張
- : 12 * 偽教師たち、挑戦的で、パウロの主張の真正さに疑問を抱いていた
- * パウロ、多くのビジョン、啓示をキリストから受けた
 - † 主の晩餐を正確に描写
 - コリント人第一 11 : 23以降

キリストの使徒としてのパウロの資格証明

1. パウロは人に取り入らない
 2. 受けた啓示は直接キリストからである
 3. かつて、ユダヤ教徒であったころの熱意、もっと良いものために完全に放棄された
- ☆ パウロの使徒としての資格
- * 神、パウロを意識的に十二使徒とは別に取り分けられ、独自のミニストリーを任命された
 - * だれにもパウロを非難する言いがかりを与えないためであった
 - ① 借り物のメッセージをしている、あるいは、② メッセージを作り上げている

神の奥義を告げるパウロのミニストリー

- ☆ 異邦人に向けてのパウロのミニストリー、「一つのからだ」、教会の奥義に関わった
- ☆ 十二使徒は地上でキリストから召名を受け、地上に具現するイスラエルのメシヤの王国、「地上の御国」への希望を提示
- ☆ パウロは召名を天から受け、キリストの教会「天上の教会」を提示
- ☆ パウロ、キリストにある「一つのからだ」を代表する使徒、
—ユダヤ人であり、異邦人の市民権を持った人— であった

: 13 「私の行動」 :

- * パウロの生活様式
 - * パウロの人生、神のご介入でキリストの恵みにあずかる奇蹟がなければ、ユダヤ教の熱心な擁護者として終わったであろう
- : 16 * パウロのミニストリーはこの世のコネクションとは全く無縁
- * 生まれたときからパウロはミニストリーのために備えられていた
 - * パリサイ人は、自らを他の人たちから分け隔てた「分離主義者」であった
 - パウロは、自らを神の福音へと分け隔てられた、霊的な「分離主義者」とみなした
- : 19 「主の兄弟ヤコブ」 :
- * 『ヤコブの手紙』の著者で、キリストの異父兄弟
- : 22 * パウロ、タルソとその周りの地方で宣教
- * もしバルナバがいなければ、パウロが信徒たちに受け入れられることはなかったかもしれない
- : 24 * 使徒たち、異邦人に向けたパウロ特有のミニストリーを認めた
- * エルサレム会議で使徒たち、異邦人は律法の下に置かれていないと、決定